

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	愛 知 県
-------	-------

学校の概要 (平成15年4月現在)

学校名	江南市立布袋小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	4	4	4	4	4	1	24	34
児童数	119	133	135	140	140	149	5	821	

研究の概要

1 研究主題

確かな学力をもつ児童の育成
---------------

2 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p><b>算数 全学年</b></p> <p>算数は積み上げの指導内容が多い教科であり、学年が進むにつれて学習内容も複雑になり、児童の理解度や習熟度の差が生じやすく、興味・関心の差が大きくなる。そこで、全学年の指導内容を系統的に見て、一貫した指導を行い、1年生時から個に応じた指導・支援を今まで以上に充実することにより、個の力を高め、基礎・基本の確実な定着と習熟を図りたいため。</p> <p><b>国語 3・4年生</b></p> <p>国語では、豊かな言語感覚を養い、互いの立場や考えを尊重して言葉で伝え合う力が必要とされている。こうしたコミュニケーション能力を育成するには、小集団の中で言語活動の機会を多くすることで、話すことや聞くことの練習を積み重ねていくことが大切である。学校生活にもすっかり慣れ、多様な活動を積極的に楽しむことができる中学年の児童は、言語活動の相手や目的も様々な広がりを見せるので、この時期をとらえて指導を進めていくことが、より効果的であると考えたため。</p> <p><b>理科 5・6年生</b></p> <p>理科では、科学的な思考力を育成することが求められている。特に、高学年においては、児童一人一人が自分の興味・関心に応じた課題を選択し、多様な学習活動を展開して問題解決をしていくことが必要となってくる。そのために、複数の教員できめ細かな指導・支援を行い、基礎・基本の確実な定着と科学的な思考力の育成を図っていきたいと考えたため。</p>
---

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ</p> <p>確かな学力をもつ児童の育成</p> <p>個に応じたきめ細かな指導方法の改善を通して</p> <p>仮説</p> <p>小学校における基本的教科(国語、算数、理科)において、少人数授業等、個に応じたきめ細かな指導方法の工夫改善を図ることにより、児童は「授業がわかる!」という喜びや</p>
--------	--

「授業が楽しい！」という達成感を味わうことができ、確かな学力を身に付けることができる。

研究内容・方法

児童の一人一人の実態に応じたきめ細かな指導の一層の充実を図り、「確かな学力をもつ児童の育成」を目指して、国語・算数・理科の基本的教科において、指導体制を下表のようにし、以下のことについて研究実践を進めた。特に初年度は、 ・ ・ に力点を置いた。

教師の授業力の向上

- ・ 授業診断や授業研究の実施

個に応じたきめ細かな指導を可能にする児童理解の方法の探究

- ・ 児童の性格、興味・関心、学習意欲
- ・ 児童の理解度
- ・ 児童の人間関係 等

個に応じたきめ細かな指導のための指導方法・指導体制の工夫改善

- ・ 学習を進める上での決まり事の共通理解
- ・ 少人数指導における学習集団の分け方
- ・ T T指導における各教師の役割
- ・ 全体指導、少人数指導、T T指導の適切な使い分け
- ・ 担任と少人数担当者との連携 等

発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材・教具の工夫や開発

個に応じた指導のための評価方法の工夫改善

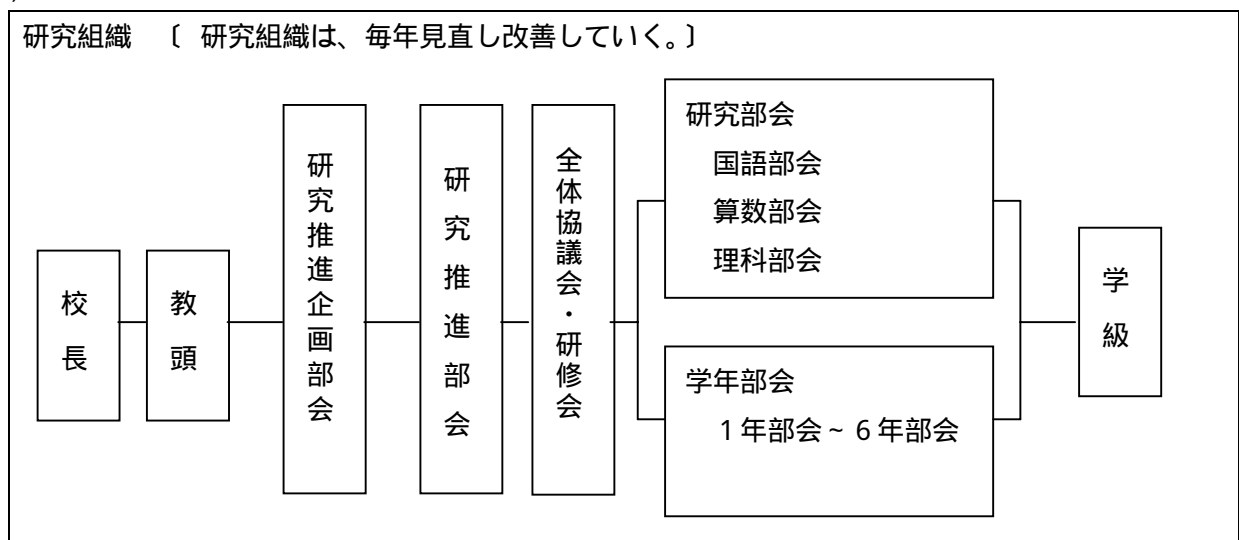
教科	学年	指導体制	教科	学年	指導体制
算数	1年	T T又は1学級2集団少人数指導	国語	3年	2学級3集団の少人数指導
	2年	1学級2集団の少人数指導		4年	2学級3集団の少人数指導
	3年	2学級3集団の少人数指導	理科	5年	T T又は1学級2集団の少人数指導
	4年	2学級3集団の少人数指導		6年	T T又は1学級2集団の少人数指導業
	5年	2学級3集団の少人数指導			
	6年	2学級3集団の少人数指導			

平成15年度	テーマ
	確かな学力をもつ児童の育成
	個に応じた指導のための教材の開発を通して
	仮説
	個に応じた指導のための教材開発をし、きめ細かな指導方法の工夫改善を図ることによって、児童が「授業がわかる！」という喜びや「授業が楽しい！」という達成感を味わうことができる。
研究内容・方法	
	「確かな学力をもつ児童の育成」を目指して、児童の一人一人の実態に応じたきめ細かな指導の一層の充実を図るとともに、以下のことについて研究実践を進める。特に2年目は ・

	<p>に力点を置く。</p> <p>教師の授業力の向上</p> <p>個に応じたきめ細かな指導を可能にする児童理解の方法の探究</p> <p>個に応じたきめ細かな指導のための指導方法・指導体制の工夫改善</p> <p>個に応じた指導のための教材・教具の工夫や開発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発展的な学習や補充的な学習の教材開発</li> <li>・ 理解や習熟の度合いに応じた教材・教具の工夫</li> </ul> <p>個に応じた指導のための評価方法の工夫改善</p> <p>なお、3・4年生国語の指導体制を2学級3集団から1学級2集団に変更した。</p>
--	---

平成16年度	<p>テーマ</p> <p>確かな学力をもつ児童の育成</p> <p>評価を生かした指導の改善を通して</p> <p>仮説</p> <p>個に応じた指導のための教材開発やきめ細かな指導方法の工夫改善をし、指導と評価の一体化を図ることにより、児童が「授業がわかる!」という喜びや「授業が楽しい!」という達成感を味わうことができれば、確かな学力を身に付けることができる。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>「確かな学力をもつ児童の育成」を目指して、以下のことについて研究実践を進める。</p> <p>特に3年目は ・ に力点を置く。</p> <p>教師の授業力の向上</p> <p>個に応じたきめ細かな指導を可能にする児童理解の方法の探究</p> <p>個に応じたきめ細かな指導のための指導方法・指導体制の確立</p> <p>個に応じた指導のための教材・教具の工夫や開発</p> <p>個に応じた指導のための評価方法の工夫改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 評価規準と評価方法の適正化</li> <li>・ 児童の自己評価能力の育成</li> </ul>
--------	--

(3) 研究推進体制



## 平成15年度の研究成果及び今後の課題

### 1 研究成果

今年度の学力検査については2月中旬に実施し、昨年5月上旬に実施したものと比較検討する予定である。

#### 成果

- 「学習アンケート」の結果から、「授業がよくわかる。だいたいわかる。」と答えた児童が、全学年平均で80%を超えている。特に、TTや少人数指導を実施した基本的教科(国・算・理)では高い数値を示した。
- 算数科では、金魚、ストロー、タイルなどの具体物や数図ブロックなどの半具体物による操作活動を取り入れて視覚的に捉えやすくすることにより、児童の考え方の筋道立てが容易になったり、導入段階で児童の生活に身近な教材を取り上げることにより、児童が意欲的に授業に取り組んだりするようになった。
- 国語科では、学習シートを理解活動や表現活動で活用したり、コース別に単元全体を見渡すために利用したり、ポートフォリオ的に累積して活用したり、自分の学習の振り返り資料としたりするなど、さまざまな用途に合わせて開発することにより、目的に合わせた学習ができるとともに、より確かなコミュニケーション能力の伸長に結びつけることができた。
- 理科では、個々の疑問から課題を設定し、豊富な教材、教具を用いて、一人一人が実験や観察に取り組んだことにより、確かな理解や新たな疑問へと発展させることができるとともに、こうした学習経験を積み上げることにより問題解決的な能力を高めることができた。

#### 課題

- 個人差を考慮した、個に応じた教材をさらに工夫し開発すること。
- 自分の学習を振り返り、次の学習に生かしていくことができる自己評価能力を育成していくこと。

### 学力等把握のための学校としての取組

定期的に学力検査「教研式観点別到達度学力検査CRT」を実施する。(年1回)

### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

#### 1 フロンティアスクール授業公開の実施

- (1) 日 時 平成15年10月24日(金) 12時35分～16時30分
- (2) 場 所 本校(江南市立布袋小学校)
- (3) 内 容 公開授業 算数、国語、理科の少人数指導を中心に全学年2時間の公開全体会 研究の概要説明、質疑応答、指導助言
- (4) 対 象 丹葉管内小中学校教員、本校保護者

#### 2 学力向上推進 中島・丹葉地区協議会での実践報告

- (1) 日 時 平成16年1月23日(金) 13時15分～16時30分
- (2) 場 所 岩倉市総合体育文化センター
- (3) 内 容 本校の実践研究を報告する。
- (4) 対 象 本推進地区の小中学校教務主任 フロンティアスクール保護者代表

#### 3 保護者、他校への成果の普及

PTA総会や学級懇談会の場、学校通信を活用し、フロンティア事業の趣旨と本校のねらいを説明するとともに、少人数指導授業やTTによる指導等を積極的に公開し、保護者への理解と協力を得ている。また、丹葉管内の全小学校へ研究紀要と教材集を配付し、成果の普及を図っている。

#### 4 ホームページの開設 <http://www.hotei-e.ed.jp/>

平成14年12月下旬よりホームページを開設し、研究内容について紹介をしている。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】	1 5 年度からの新規校	1 4 年度からの継続校		
【学校規模】	6 学級以下	7 ~ 1 2 学級		
	1 3 ~ 1 8 学級	1 9 ~ 2 4 学級		
	2 5 学級以上			
【指導体制】	少人数指導	T . T による指導		
	一部教科担任制	その他		
【研究教科】	国語	社会	算数	理科
	生活	音楽	図画工作	家庭
	体育	その他		
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有	無	